

# 乙女高原が好き！2201号

## \*\*\*今年度の活動が始まります\*\*\* ～2022年度総会開催～

新型コロナウイルス感染拡大の影響が2年間におよび、特に今年に入ってから感染者が急増し、乙女高原ファンクラブの活動もできなくなってしまいました。乙女高原フォーラムは今年も中止、自然観察交流会も2月、3月と中止となりました。しかし、新年度が始まり、乙女高原にも春がやってきます。今年こそはと願いつつ、ファンクラブの活動も再開していきたいと思えます。

※ ※ ※

3月13日(日)午後2時から山梨市役所牧丘支所で2021年度総会を行いました。参加者は計16名。委任状は翌日届いた分を入れて122通。感染対策として、2階の広い部屋を借り、机の配置なども工夫して始めました。三枝さんの司会により開会宣言。代表世話人あいさつは角田さん。コロナ対策として簡潔明瞭・短時間で終わらせようとのお願いがありました。来賓としてご臨席いただいた高木山梨市長よりご挨拶をいただきました。

市長さんからは、いつ入会したか記憶がないほど前から入会している大ファンであること、乙女高原は希少な自然、動植物がいる、山梨市の大切な大切な資産であること、昨年はファンクラブ20周年であること、春の遊歩道づくり、秋の草刈り、冬のフォーラムについては山梨県・山梨市・ファンクラブが三位一体となって、また、四百数十名の会員が心をつなげて乙女高原を守っていること、シカ柵設置によって、自然が守られ、新たな状況も生まれてきて、ほっとしていること、温度、標高、積雪、いろいろな条件が重なってできるという谷地坊主という天然記念物もある乙女高原をさらにさらに多くの人々に親しまれる場所にしていきたい、山梨市民にはこの乙女高原を誇りに思ってもらいたい、乙女高原の保全について、「自然に適正な手を加えることも大切だ」との話をうかがい、このような大切な自然を、とりわけ子どもたちに伝えてほしい、こんな素晴らしい場所が山梨市にあるという認識を持ってもらいたい、できれば教育プログラムが作ればありがたいとのこと、市としても、ここを守るための協力をするので、これからも声を届けてもらい、一緒に取り組もうなど力強いお言葉をいただきました。

議事となり、角田さんの議長でスムーズに進みました。「2021年度活動報告」は、事務局の植原さんからかいつまんで報告されました。「2021年度収支決算報告」は、会計の小林さんから報告がありました。概略は前年度からの繰越金が48万円、今年度の収入が46万円で、収入計は94万円。今年度の支出が48万円で、次年度への繰越金が46万円です。ほぼほぼ今年度の収入で支出が賄えました。「会計監査報告」は、会計監査員の奥山さん、駒田さんのお二人を代表して、駒田さんからされました。今回の会計監査は、コロナにより集まって行うことができず、資料一式を監査委員に郵送して、それぞれで監査していただきました。手間がかかり、大変だったと思います。これらは一括審議、承認されました。

次に「2022年度活動計画」「2022年度収支予算案」が事務局の植原さんから提案されました。備品として電動刈り払い機とプロジェクターを購入することも提案されました。これらも一括審議し、承認されました。「その他」として、会場から「フォーラムの講師として、鷲谷さんをお呼びしたい」との声があり、全会一致で鷲谷さんをお願いすることになりました(その後、ご本人からご快諾いただいています)。

また、事務局から、2022年度第1回乙女高原連絡会議・乙女高原世話人会の期日について話がありました。以上で議事は終了しました。角田さん、議長ご苦労様でした。

その他として以下の2項目について話がありました。

- ・乙女高原ファンクラブの記事が載った「山と溪谷社『山と溪谷』2022年3月号の掲載ページ
- ・筑波大学山岳科学センターシンポジウム「草原のつながり～人と自然が織りなす歴史遺産～」

最後に、司会の三枝さんから閉会のあいさつがあり、乙女高原ファンクラブ2021年度総会が無事、終了しました。山梨市より高木市長さん、角田観光課長さんをはじめ4名ものご参加があり、とてもありがたかったです。

なお、昨年度の活動報告、来年度の活動計画については、同封の別紙をご覧ください。

同封の郵便振込用紙は寄付金の送付、「乙女高原大百科」（詳しくは、裏表紙）の購入代金の送付等にご活用ください。寄付はあくまで任意です。

乙女高原ファンクラブではインターネットを活用した情報発信・情報提供をしています。ご利用ください。

- ①ホームページ…乙女高原 [検索](#) または <http://fruits.jp/~otomefc/>
- ②メールマガジンの配信…不定期。配信希望の方は [otomefc@fruits.jp](mailto:otomefc@fruits.jp) までメールを
- ③活動ブログ…ホームページからリンクまたは <https://blog.goo.ne.jp/otomefcact>
- ④観察ブログ…ホームページからリンクまたは <https://blog.goo.ne.jp/otomefc>
- ⑤乙女高原後援会…SNS フェイスブックの公開グループ。



## 今年も乙女高原でスマレざんまいの日々を！ 第12期「スマレ観察会」シリーズ

今年も「スマレ観察会」シリーズを開催します。スマレに特化した観察会を開催するのは12年目になります。乙女高原で見つかったスマレの種類は変種や交雑種を含めて、なんと31種類。とはいえ一回の観察会で全部を観ることは不可能です。スマレの種類によって開花の時期が違ふし、好みの場所も違ふからです。同じような姿かたちなのに、こんなにたくさんのスマレ！まさに生物多様性そのもの。ぜひ複数回参加し、多様なスマレの世界を楽しんでください。

- ① **5月15日(日)** 集合 13:00 乙女高原グリーンロッジ ～16:00 講師は案内人の依田さん。無料。

乙女高原自然観察交流会②を兼ねて。

※この日の午前中は「遊歩道作り」ボランティア作業。こちらにもぜひご参加ください(別紙参照)。

- ② **5月22日(土)** 集合 9:30 乙女高原グリーンロッジ ～15:00

乙女高原とその周辺でスマレを観察します。

- ③ **6月4日(土)** 集合 8:30 牧丘の道の駅 ～15:30 乙女高原自然観察交流会を兼ねて。

1日かけて標高 2000mほどのところに広がるキバナノコマノツメ群落を観察しに行きます。

キバナノコマノツメは黄色い花をつけるスマレです。



### ●補助金・助成金をありがとうございました●

乙女高原ファンクラブは各種団体様や企業様からいただいた補助金・助成金で運営されています。※2021年度

山梨市/乙女高原保護活動事業補助金様、富士フィルム様/富士フィルム端数倶楽部様(旧富士ゼロックス)、イオン石和店様/マックスバリュ東海様(黄色いレシートキャンペーン)、榎田丸グリーン基金様

### ●ご寄付をありがとうございました●

乙女高原ファンクラブは皆様からいただいたご寄付で運営されています。 ※2021年3月～2022年3月

依田 昇様・三枝子様、本多やよい様、北 直行様、海野 保様、三枝重人様、伏見 勝様、辻万里奈様、岡崎 章様・正子様、高島健次様、向山高子様、青木隆明様、天野侑子様、雨宮 寛様、永原章二様、井上菜穂子様・樋田千瀬子様、鮎澤 譲様、池田真人様、鈴木 勲様、尾曲夏楠様・岡村愛子様、渡邊慶孝様、坂本 浩様、駒田勝彦様、芳賀月子様、三枝かめよ様、井上敬子様、角田敏幸様、市田淳子様、米村雅範様、槇田麗子様・幹夫様、大嶽ひろ美様、古屋明子様、菊地猛三様、小林召二様、柿崎洋子様、古屋利雄様、倉光加寿子様、和田安雄様、向山源吾様、早乙女修一様、田草川恒子様、宮崎菊江様、浅井聡司様、宮崎継雄様、小川裕子様、佃 和夫様、計良和子様、川畑悦子様、秋元由喜子様、生山鈴子様、加藤信子様・洋一様、恩田利明様、菅原美和子様・綾田浩子様・伊藤紀薫様、小口勝子様、菅澤桂子様、中川昌昭様、土屋和三様、樋口多聞様、名執真理子様・義高様、雨宮 久様、成田 典彦様、小林 奈都夫様、植原 彰様、雨宮浦助様、古屋敏夫様・千代子様、小澤 誠様、宇田川文明様、

今年度も基本毎月第一土曜日に「乙女高原自然観察交流会」を開催します。詳しくはホームページで。

## ・乙女高原自然観察記録・ 3月4日の乙女高原 (記事：植原 彰)

もともとこの日は今年度最後の乙女高原自然観察交流会でしたが、コロナ感染拡大を受けて中止としました。

ですが、1月1日に交換した気温記録用データロガーの活動限界が近づいていて、今週か来週には交換しないと、気温データが欠けてしまいます。とはいえ、ぼくは昨夜、コロナ・ワクチンの3回目接種を受けたばかりなので、今日の体調がどうなるかわかりません。朝、起きたとき、注射した肩のあたりが痛くて、腕が持ち上げられないということはありませんでしたが、発熱はなく、具合も悪くなかったので、乙女高原を目指すことにしました。

いい天気で、暖かでした。先週も途中まで行ってみましたが、そのときよりもずっと雪解けが進んでいました。途中の雑木林の中には、ほとんど残雪がない林もありました。柳平より先も道路は雪かきしてありました。たくさんの木材を積んだトラックが下るとすれ違いました。木材の伐り出しが行われているに違いありません。スノーシューをポール(ストック)に差して、肩に担いで行きました。焼山峠より先まで雪がかいてありました。大窪山登山道入り口付近のカラマツが伐られ、運ばれていました。雪かきしてあるのはここまででした。ここから先はスノーシューを履いて歩いたのですが、暖かくて、中のダウンジャケットもパーカーも脱いでしまいました。上は2枚だけ。その暖かさのせいでしょうか、道路脇の雪が解けたところでは、地域外来種であるヒメオドリコソウのかわいい芽が出てきていました。

林道から湿地に向かう遊歩道に入りました。ノウサギの糞が一か所に10個もありました。ここ数年、ノウサギの痕跡が少なくなっていて心配していました。ところが、ここ1・2年、足跡といい糞といい食痕といい、ノウサギの痕跡がたくさん見つかるようになってきました。なんかうれしくなりました。そういえば乙女の草原内でもウサギの足跡を確認しました。

雪の上に笹が出ていくところでは、笹に食べられた跡が見られました。なんだか笹の枯れ木の原です。シカのしわざだと思えます。

もう「春の雪」だったので、雪はとても柔らかく、スノーシューがズボズボ雪にはまっ

てしまい、歩きにくかったです。深いところで50センチの積雪でした。湿地では谷地坊主が雪の下でした。水の流れの近くではその姿を見ることができました。雪に髪の毛を押さえられ、髪がボサボサのパンクロック状態からゲゲゲの鬼太郎のように整えられていました。床屋さんでアツアツの蒸したタオルを頭に巻かれた後みたいな感じでしょうか。

草原はほぼほぼ雪景色でした。ロッジ庭のベンチは、座面と雪の高さが同じくらいです。ロッジ前に置かれた百葉箱のデータロガーを交換しました。シカ柵の扉が開くか心配でしたが、ロッジ前の扉は大丈夫でした。これならヨモギ頭前の扉も大丈夫だろうと考え、「森のコース」を登りました。

このコースにはウラジロモミの若木がたくさんあるのですが、面白かったですよ。ウラジロモミの枝って幹から少し斜め上に向かって伸びるのですが、下の枝は枝先に雪が付いてしまい、その雪が地面の雪とくっついてしまうのと、その重みとで斜め下向きになっています。夏、長野北部の森を地元の自然観察指導員の方と歩いていて、針葉樹の枝がある高さから上は斜め上なのに、その高さから下は斜め下に向かっていて、不思議に思いました。理由は雪。下向きの枝は乙女高原のウラジロモミと同じ理由で下向きに曲がってしまい、しかも、雪が深いのでその力が強く、長い時間続くので、こんな形になるそうです。だから、どこから枝が斜め下になっているかを見ると、その土地の雪の深さが想像できるそうです。自然観察って面白いですね。

ヨモギ頭のシカ柵扉が、雪が邪魔して開きません。少し焦りましたが、邪魔している雪を手で少しずつかいて、なんとか扉を開けることができました。これも春先で、雪が柔らかかったおかげで、素手でもかくことができたわけです。富士山はかすんで、まったく見えません。黄砂のおかげでしょうか。

シカ柵内の雪原を一回りしました。雪はほんとうに深く、しかも柔らかいので、歩きにくい。一歩踏み出して、後ろの足をあげようとしても、なかなか上がりません。坂道では、足を動かすたびに雪玉がころころ転がり落ち、それが自然と大きくなっていき、なんか楽しかったです。キツネの足跡は雪の表面のみですが、シカの足跡はズボッと雪の深いところまではいっています。さぞかし歩きにくかったらうと思えます。

草原で春一番に花を咲かせるツノハシバミの冬芽が膨らんで、もうすぐ割れそうでした。

ロッジの玄関に戻り、ベンチに座って、スノーシューを脱ぎました。少し、足が楽になりました。おにぎりを食べ、食休みをしたら、出発しました。途中、エナガが2羽にいるのを見ました。混群ではなく2羽にいるということは・・・きっともう巣作りを始めているんだろうなと思えました。双眼鏡でしっかり姿が見られれば、エナガの長い柄(尾)がボサボサになっているのを確認できたかもしれません。エナガは他の鳥たちの羽毛を使って寝袋のような「中に入る」タイプの巣をつくります。長い尾が巣の中では邪魔になるらしく、巣作り・子育ての時期になると、尾がボサボサになります。

帰路に向かいました。カラマツの伐採現場では、行きにはなかった材木の山ができていました。

焼山から15分ほど歩いて、毎春マンサクを楽しむポイントに行ってみました。去年は2月28日にはもう咲き始めていたので、今年はどうかなと思いましたが、まだまだ蕾でした。

途中、カラマツのてっぺん近くに鳥の巣を発見しました。猛禽のようにもカラスのようにも見えました。

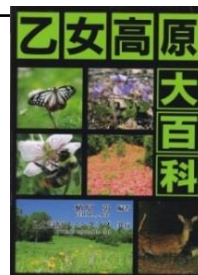


●今号は編集を井上敬子、校正を植原 彰さん、鈴木辰三さんが行いました。今後、山梨市社会福祉協議会の印刷機をお借りして芳賀月子さんと三枝かめよさんが印刷をし、それを加藤信子さんに宅配便で送り、発送作業をしていただく予定です。約430通がこうして皆様のもとに届けられます。(井上)

## 乙女高原ファンクラブの刊行物

### 乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁) 草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら360円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,360円送金してください。



### 乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判 186頁) 乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。→[在庫切れ](#)

## 乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



### フィールドガイドⅢ スミレの観察のおともに『乙女高原のスミレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー) 乙女高原では、なんと18種類ものスミレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスミレたちのプロフィールを紹介するとともに、スミレ観察のポイントをていねいに解説しました。

### フィールドガイドⅡ マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー) マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

### フィールドガイドⅠ 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー) フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

## ■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

### 乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

今号は普通会员・サポーター会員ともにお送りしています。

## ■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】 植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ